

みんなで子育て No. 4

いくつかの参集型の家庭教育学級を訪問取材させていただきましたので紹介します。

山県市立富岡保育園 「おなか元気教室」など 6月17日



年中・年長保護者の皆様

令和4年5月吉日

富岡保育園 家庭教育学級長

家庭教育学級についてのお知らせ

立夏を過ぎましたが、まだ春の名残りが感じられる昨今です。また、日頃より保護者の活動に、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度の家庭教育学級のテーマは『親子で学ぼうSDGs』サブテーマとして「SDGsの中には、私たちの食生活と深い関わりを持つものがあり、それらを親子で楽しく学んでいく。』です。

食は私たちの生活に欠かせないもので、自然の恵みや地球環境に支えられています。親子で食育体験を通じて楽しく学ぶことで、持続可能な社会を築いていく基盤となる考えを養い、物事に対する広い視野を持てればと考えております。

そこで、第1回家庭教育学級として、岐阜ヤクルト販売(株)様による、「おなか元気教室〜腸の働きよいランチ、おなかの体操〜」を計画いたしました。ぜひとも、ご参加のほどよろしくお願ひ申し上げます。

日程

日時 6月17日(金) 年中10:00~ 年長10:40~

場所 富岡保育園2階遊戯室

講師 岐阜ヤクルト(株)様

当日の流れ

時間	年中	時間	年長
9:00~9:45	保育参観	9:40~10:25	保育参観
9:45~10:00	遊戯室へ移動	10:25~10:40	遊戯室へ移動
10:00~10:30	家庭教育学級 (親子一緒)	10:40~11:10	家庭教育学級 (親子一緒)

※入れ替え制となりますので、終了後、速やかに移動をお願いします。

持ち物：室内用スリッパ

コロナ禍の対応と致しまして、三密を避けるため2部制の形を取らせていただきます。

保護者様は家庭教育学級終了後解散となります。

ご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力いただけると幸いです。

お願い

・お車の駐車は、富岡公民館第2駐車場、東駐車場をご利用ください。
保育園西駐車場、子どもげんきほうすへの駐車はご遠慮願ひます。



年少・

立夏を動に、さて、のちのこにいく。子供がの体験培う「そこでご参加

日程
日時
場所
講師

当日の

時間	年少・未満児
14:00~15:00	家庭教育学級(保護者のみ)
15:00~	保育参観

※保育参観終了次第、降園となります。

持ち物：室内用スリッパ

お願い

・お車の駐車は、富岡公民館第2駐車場、東駐車場、保育園西駐車場、子どもげんきほうすへの駐車



《8つのやくそく》

- 1 はやね スヤスヤ
- 2 はやおき パチパチ
- 3 うんち プリプリ
- 4 あさごはん モリモリ
- 5 やさい モグモグ
- 6 からだ ノビノビ
- 7 おみず コクコク
- 8 さいきん グビグビ

コロナ禍のため、2年ぶりの参集型の家庭教育学級が実施されました。保育参観に合わせて家庭教育学級も行う、学校行事参加型(A)+講演会型(C)という形で実施するよう工夫されました。

今年度の富岡保育園の家庭教育学級のテーマは「親子で学ぼうSDGs」で、サブテーマを「SDGsの中には、私たちの食生活と深い関わりを持つものがあり、それらを親子で楽しく学んでいく」とされました。これは、毎日の生活の中で必要不可欠な**食事**。このことについて学びたいという保護者の声が多くあり、これに**応えるため「食」をテーマにした家庭教育学級を企画されたということでした。**

午前中、保育参観後に年中児・年長児と保護者が一緒にお話を聞く講座が行われ、午後からは年少児・未満児がお昼寝をしている間に保護者を対象にした講座を行い、その後に保育参観をしてもらう形で進められました。

午前の講師は「岐阜ヤクルト販売(株)」の方で、子どもたちにも分かりやすいように「よいうんち」になるようにするには、どのようなことに気をつけたらよいか(左下8つのやくそく)を人形を使いながらお話されていました。このように**企業さんの無料の派遣講座を上手く活用し、家庭教育学級を開催する**のも一つの方法だと思ひます。

午後からの講師は、山県市役所子育て支援課の管理栄養士さんでした。保護者のみの講話ということでしたが、子どもたちに好き嫌なく野菜を食べてもらうために、自分たちで野菜を育てて収穫したものを調理するとか、一緒に買い物をして料理するなど、子どもたちにも食に興味をもってもらうための具体的な方法についてもお話がありました。

コロナ対策も兼ね、子どもたちの発達段階に合わせ、2部構成、3部構成にして学びの内容を変えたり、手間はかかりますが丁寧な運営をされていたことがとても素晴らしいと感じました。是非参考にさせていただきたいと思ひます。

企業が社会貢献活動として実施する無料で講師派遣を行う事業や、地域の行政の方を活用するなど、お金をかけなくても講座を開くことが可能です。皆さんが企画される家庭教育学級でも工夫してみてください。

参加された保護者の方に感想等をお聞きしたところ「うちの子はコロコロうんちが多いので、これを機会に野菜を食べられるようになれるとよいのですけど」「野菜を小さく刻んで食べさせるようにしています」「他のお母さんたちと顔を合わせることができ良かったです」などと述べられていました。

家庭教育学級で学んだことや、保護者同士のつながりができたことが、何らかの形で子どもたちに還元されることを期待したいと思ひます。



家庭教育学級（読み聞かせ講座）のお知らせ

日頃は、PTA 活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。
5月の園だよりでもお伝えしてまいりましたように、年少児と年少児保護者対象に、絵本読み聞かせ、読み聞かせ講座が行われます。お子様の様子を参観いただき、ご家庭での読み聞かせの参考にさせていただければと思います。よろしくお願いたします。

記

1. 日時 令和4年 6月22日(水) 13:00～
2. 場所 糸貫西幼児園遊戯室
3. 内容 13:00～13:15 年少組絵本タイム参観
遊戯室後ろから子供たちの様子を見てください。
13:20～14:00 家庭教育学級 講師 天野知子先生(遊戯室)
「絵本の読み聞かせのおもしろさや大切さ」
4. 持ち物 吊り下げ名札着用、スリッパ、靴を入れる袋
マスク着用、下記の健康チェックカードを切り取って持参してください。

※ 保護者参加は、1名でお願いします。
なお、今後の状況によっては、延期や中止の場合がありますのでご了承ください。

おやこどくしょカード

くみ なまえ

絵本は、親子が心を動かしながら読む本です。
絵本を読み聞かせることは、子どもの心を豊かにし、本好きな子どもを育てることにつながります。ぜひ、親子で心を動かしながら絵本を楽しんでください。



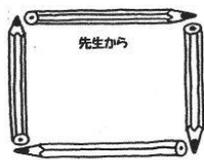
～絵本を読むときは～

- ・手を洗ってから見ましょう。
- ・あわてず、ゆっくり楽しい雰囲気の中で読んでみましょう。
- ・本を折ったり、落書きをしたり、破ったりしないように気を付けましょう。
- ・傷んだところは、きれいに貼って直しましょう。

借りる日…金曜日
返す日 …水曜日
※行事などで、借りる日返す日変更になることがあります。

☆おやこどくしょカードは、絵本と一緒に水曜日に返却します。
☆1年間使用しますので、大切に保管してください。
☆3学期末(3月末)には、『お家の方から』を記入してください。読み聞かせを通して、感じたことや気付いたことを記入してください。特に、子どもの姿で良かったところや嬉しかったことを多く見つけてください。

借りきた日	本の名前	担任印
例) 4/10	はらべこあむし	



糸貫西幼児園では、長年にわたり読み聞かせボランティアを行っていただいている天野知子氏（現岐阜県社会教育委員連絡協議会会長）を講師に迎え、「絵本の読み聞かせのおもしろさや大切さ」について学ぶ、家庭教育学級を企画・運営されました。保育参観に合わせる、学校行事参加型（A）+講演会型（C）という形によるものです。

糸貫西幼児園では、例年、年少保護者対象に「絵本の読み聞かせ」、年中保護者対象に「歯の健康」、年長保護者対象に「交通安全」をテーマにした家庭教育学級を計画されているということでした。

意図的に年齢別のテーマを決め、継続的に研修会を計画される方法は参考にできそうですね。

「講話から学んだ「絵本の読み聞かせ」の大切さ」

子どもたちが耳にする音声は、今、電子音が多くなっています。子どもには「生の声」を聞かせてあげたい。膝に子どもを乗せて読み聞かせを行うと、子どもはのけぞって、お父さんやお母さんの顔を見ようとする。親の体温を感じながら親の生の声を聞かせることは、理想的な親子のふれあいの場。

絵本の世界がなぜ必要なのかというと、大人になると書かれている「文字」を読んでしまいますが、10歳ぐらいまでの子どもは描かれている「絵」を読むことができる。絵本作家の中には「絵で遊ぶ」作家もいるし、子どもたちは、主人公以外の登場（人）物にも注目しながら、自分でお話をつくりながら絵本を読んでいることがあるので、大人が見つけれないものを見つけることができる。読み聞かせをしていると、そんな子どもたちから教えてもらうことも多い。そんな子どもをほめてあげられればとても素敵なこと。

ある時期になると、字が読めるようになるが、まだ言葉は知らない。読み聞かせることで、子どもたちは言葉を獲得していくことができる。昔話には、それぞれの地方の思いが詰まっている。昔話を聞くことで、いろいろな人の気持ちに寄り添うことができるようになる。

「絵本読んで」というお願いに対して、何度でも読んであげることで、子どもたちは、お願いしたことに対して、応えてくれたという満足感を得ることができる。このような体験を通して、良好な親子関係を構築することができる。

終了後に参加された保護者の方に感想をお聞きしたところ、『子どもの「読んで」には応えるようにしているけど、自分から「絵本を読もうか」とは言っていないので、今日からは読んであげられるようにしたいです。（母親）』『家には車の絵本が多いのですが、今日の話の中にあつた「絵が読める」というのは感覚としてわかります。よくアドリブを入れているので。（父親）』と話されていて、講師の先生のお話にとっても納得されました。

子どもたちは、園にある絵本を金曜日に家庭に持ち帰り、水曜日に返却する形で、家庭における親子読書の活動を進めているということでした。また、「おやこどくしょカード」に、読んだ絵本の記録を残してもらっているということで、とても素敵な活動だと思えます。このような活動も参考にしたいですね！



本田小学校PTA会員 各位

本田小学校家庭教育学級
運営委員会

令和4年度 本田小学校家庭教育学級
開講式・第1回講座

第1回講座は、毛利理恵先生の子育て講座「自分で考えて行動できる子の育て方～子供の可能性を引き出す～」です。

毛利理恵先生は、子育てに苦悩しているときに心理学に出会い、子育てを楽しめるようになったそうです。その経験から、「子育てでは、ちょっぴりのコツで楽しくなる」ということを多くの方々に知ってもらいたいと、NPO法人日本ウーマンプロジェクトを立ちあげ、理事長をされています。また、瑞穂市のPTAや岐阜県内の小中学校などでも講演をされています。ぜひ一度、お話を聞いてみませんか。皆様の参加をお待ちしています。

記

1. 日 時 令和4年6月24日(金) 10:00~10:15 開講式
10:15~11:30 第1回講座
2. 会 場 本田小学校 多目的室(体育館北側にある図書室の2階)
3. 持ち物 スリッパ・筆記用具・入校証
必要があればお茶のご持参をお願いいたします。

～コロナウィルス感染予防対策として～

来校前に検温し、受付で体温を教えてください。マスク着用をお願いします。

本日はご参加いただきありがとうございました。
どんなことでも結構ですので、ご感想をお願いいたします。

- ・子どもの接し方、勉強になりました。ダメなところばかりに目がいって、いつも先読みした声かけをしているので、自分自身を見直すいい機会になりました。やれるところからやってみたいと思いました。
- ・子どもの特性を、個性・良いところに変換して考えられるのが素晴らしいと思いました。2歳までの子育てを思い出して接していきたいと思います。
- ・うちの子も多動傾向があるため、とても興味深くお話を聞くことができました。すぐに「ほらっ」と言っている気がします。考え方や意識を少しずつでも変えていけたらと思います。

ご協力ありがとうございました。
次回のご参加をお待ちしております。



本田小学校では、今年度「心と体を健幸に」をテーマに家庭教育学級を企画・運営されています。
テーマを決めて研修内容を計画されると研修に一貫性が生まれ、学びが深まりそうですね。

今回は、NPO法人日本ウーマンプロジェクト理事長の毛利理恵氏を講師に招き、「自分で考えて行動できる子の育て方～子どもの可能性を引き出す～」と題し、お話をさせていただきました。

講師の先生の自己紹介の後、「体の健康」はだれもが同じものをイメージできるけど、「心の健康」とはどんなものと考えてみえますかと、お母さんたちに質問があり、お隣の方との意見交流を促されました。その後、全体での交流となりましたが、「ここに、おもちが欲しくて泣き叫ぶ男の子がいます。この男の子の心は健康なんでしょうか？」という追加の問いかけが講師の先生からあり、再び意見交流の場を作られました。研修会の終わり近くでは、4人組での意見交流の場を設けられました。異学年の子どもをもつ保護者さん同士ですので、普段はあまりつながりがない保護者さんの集まりです。**意図的に話し合いの場を設け、保護者同士のつながりを作っていただけだ**ように感じました。**講演会型(C)にサロン型(D)を組み合わせた**このような形にしてもらえることは理想的な運営の仕方です。

《講話から学んだ「自分で考え、行動できる子」
にするために大切なこと》

どんな大人になってほしいかと聞かれ、「親の言うことを聞く人」になってほしいという親さんはいない。でも、**日常生活の中で子どもに対し「言うことを聞きなさい」的なことを求めていますか。**

「体の健康」は、28の先進国中、日本は1位。でも「心の健康」は、28国中27位。子どもの自己肯定感は低い。**周りの子と一緒にできないと親はイライラし、苦手なものがあることを「ダメ」とする。**周りからの評価の影響を受け、子どもの自己評価は、100点中、10点とか20点とかの低評価となる。

親は子どもに、**良いところを伝えてあげる！「マイナスな点1つに対し、プラスな点2つ以上」を伝えるようにする。**苦手を減らそうとするより、得意なところをもっと大きくすべき。

2歳頃までは、できたことに対し「〇〇できたね！」と親はよく実況中継しているが、2歳になって、子どもが話をし始めると、分かっていると思ってしまい、「〇〇できたね！」と言わなくなってしまふ。

また、失敗しないようにと、先読みをした言葉がけをしがちで、うまくできないと「ほらっ 〇〇とやったでしょ！」とダメ出しをしてしまふ。「ほらっ」という言葉で、**前向きになる子はまずいない。**失敗して、嫌な思いをしていたら、親は子どもの気持ちに寄り添い、共感して「失敗しても大丈夫だよ」「次はどうしたらよと思う？」と再挑戦の機会を与え支える。

成功体験は「私はできる」という自信になる。親は**できたことを子どもと一緒に喜んであげる。**

左の感想のように、参加されたどの保護者さんも、自分の子育ての在り方を振り返られ、今回学んだことを生かしていきたいという思いを綴られていました。

応援通信No.3で、「ハグ」「スキンシップ」について取り上げました。家庭教育プログラム（乳幼児期編）86頁に、スキンシップの一つの方法として、「絵本の読み聞かせ」はいかがですか？と紹介していますが、実は絵本の読み聞かせは「最強の幼児教育教材」といわれています。今回は「読み聞かせ」と「親からの声かけ」の大切さについて述べていきたいと思ひます。

子どもに愛情のこもった声かけをたくさんしましょう！

- ◇ 人生の基礎は3歳までの言葉環境でつくられます。
- ◇ 語彙力向上の取り組みが、自己肯定感の向上に貢献します。
- ◇ 質の良い言葉や肯定語を、たくさん話しかけることが大事です。

親からの言葉の投げかけは子どもの言語能力を伸ばします！
投げかけの多少により、年長児で、11歳児に匹敵する子、2歳児程度の子。その差は9歳分にもなります。（語彙力格差）
子どもへの応答は、「早く、短く、明瞭に！」がポイント！

読み聞かせを始める年齢が、子どもの言語能力と最も強い相関関係があることが分かっています。その効果は就学時まで継続するといわれています。

「この車は何色かな？」「クマさんはこれからどうすると思ひうか？」など、子どもに質問をしながら読み聞かせ（対話的読み聞かせ）を行うと、言語能力向上の効果が、さらに高まるという調査結果も出ています。

テレビやYouTubeは

親の代わりにはなりません！

大切なのは、子どもが耳にする言葉の量ではなく、生身の人間が子どもたちに向けて話しかける言葉の量なのです。子どもと向き合い、言葉を使ってふれあうことが、子どもの能力を育てることにつながるのです。

両親は、私が小さい時からごく身近に本を置いてくれていました。そういう環境をつくってくれたことに感謝しています。
本が好きになったのは、いつもたくさん読み聞かせしてくれていたことが大きいと思ひます。
（女優：芦田愛菜さんの言葉）

プログラム10 スキンシップ（乳幼児期） 資料編

◇スキンシップの一つの方法として、「絵本の読み聞かせ」はいかがですか？

岐阜県図書館があなたを助けてくれますよ！

その1 本選びに困ったら？

- ・「25歳をすぎた絵本」のリストが参考になります。
「初めて出版されてから25年以上経っても今も子どもたちが読んでいる」という一冊の基準で選書されたものです。
- ・「子どもの本の情報窓口」（第1カウンター児童窓口）でお気軽に相談ください。
- ・「児童図書研究室」では、子どもの絵本を選ぶときに参考になる本を選んでいます。
（1階 第1カウンター近く）
- ・「あかちゃんえほんコーナー」では、0歳から3歳のお子さんが楽しめる絵本を集めています。

岐阜県図書館 検索

◇利用案内 ▶ 個別解決サポート ▶ 子ども支援

「25歳をすぎた絵本」のほか、子育てに役立つ情報があります。

<25歳をすぎた絵本>のリストから

「ふしぎなたいこ」石井綾子 文 清水 篤 絵
「ピーターラビットのおはなし」ボタケ 文・絵 石井綾子 文

その2 どんなふうに使えばいいの？

- ・「おはなし会」に行ってみてください！本選びや読み方のヒントがつかめます！
○乳幼児（0歳〜）向け：毎月第2木曜日 午前11時〜11時30分
○幼児〜小学校低学年向け：毎月第1、3日曜日 午前11時〜11時30分
○小学生：毎月第2土曜日 午後2時〜2時30分
○えいごなどのおはなし会：隔月第3日曜日 午後2時〜2時30分
○とびあそびとおはなし会：毎月第1土曜日 午後2時〜3時
○ストーリーリング：不定期
- ・「お父さんお母さんのための読み聞かせ講座」では、絵本の紹介や選び方のポイント、読み方について教えてもらえます。（年1回4月開催）
岐阜県図書館 〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1 電話 058-275-5111
※お近くの公立図書館でも、読み聞かせの会が行われています。お問い合わせのうえ、ぜひお出かけください！

どんな絵本を読み聞かせたらよいかと困られる場合は、左の資料編にも示されていますが、岐阜県図書館のHPに掲載されている「25歳をすぎた絵本」を参考にされてはどうでしょうか。出版されてから25年以上経っていて、今も子どもたちが読んでいる絵本が、「日本の絵本のリスト」「海外の絵本のリスト」として紹介されています。

また、絵本紹介冊子「魔法の扉を開いてみませんか？知識の絵本編」には、岐阜県図書館の児童担当が厳選したおすすめ絵本が、年齢別に紹介してあります。
絵本を読み聞かせることで、より多くの種類の言葉を「言葉のシャワー」として、子どもたちに浴びせることができます。読み聞かせを行うことは、良好な親子関係を育み、子どもの自己肯定感を向上させ、言語能力も高める等のはたらきがあります。是非実践してください。

25歳をすぎた絵本QR

魔法の扉を開いてみませんか？QR



家庭教育学級動画資料が、岐阜県のHPにアップされています。
右の画像は、「読み聞かせのよさ」の啓発動画の一部です。「創造力が育てる」「集中力を育てる」などそのよさを5点紹介しています。家庭教育学級の活動の一環として、「読み聞かせ」を取り入れられる場合は、活動案内文の中に、この動画教材を紹介したり、視聴を促すなどして、是非ご活用ください。

読み聞かせのよさ

4 語彙力を育てる

- ・ 言葉の意味
- ・ 表現の仕方

理解力・表現力の基礎

《家族の絆づくり》

日々、親も子どもも忙しい生活を過ごしている中で、親子の絆を深めるための時間を確保することはなかなか難しいことです。しかし、意図的にそのような時間、家族で楽しむ時間を確保することが、家庭教育の主要な部分であるといえます。家族の絆は子どもの成長にとって必要不可欠なものです。子どもにとって、自分が愛され大切にされ育てられていることを実感しながら成長することが何よりも大切であるのですから。限られた時間の中で、親子の絆を深めるには、一緒に過ごす時間の質を高められるように努めましょう。

例えば・・・

- 1日1食は、家族全員で食事をする。
できれば夕食で、1日の出来事をお互いに交流できると素敵ですね。
- 読書をする。
個別に読んでいても、同じ空間で一緒に読書を楽しんでいることが重要です。
- 家の中で修理が必要なものがあれば、子どもたちにも手伝ってもらって修理する。
修理することで、新しいスキルを身につけ、自信をもつことができる。

今年度のリーダー研修会では、親子が一緒に活動する取り組みとして、幼・保の部で「折り紙」、中学校の「食事づくり」が紹介されましたが、家族の絆づくりのために、親子、家族と一緒にできることはいっぱいあります。夏の長期休みの期間を有効に活用するために、各家庭で話し合い、活動の計画を進めてください。

もし、親子で過ごす時間の確保が難しいときは、小さな用紙（または、メッセージボード）に、温かいメッセージやユーモアのある伝言を書いておくことで、家族の絆を深めることができると素敵ですね。



取組の参考メニュー

在宅取組型 家庭教育学級

「子どもと一緒に何しよう?!」

親子が一緒に過ごす時間が多くなることをよい機会ととらえ、
親子の絆づくり・ルールづくりに取り組もう。

園や学校と相談して、子どもと一緒に楽しめる活動や生活を高める約束を選びましょう。内容は、それぞれのご家庭に任せても大丈夫です。「親子の絆づくり」は、実践カードを使わなくても大丈夫です。

親子の絆づくりに取り組もう。

- ◇ 親子で食事を作る。お弁当を作り、外で食べて気分転換。(メニュー作り、調理、後片付けまでできることをめざす。)
- ◇ 親子でバーベキューをする。(火をおこしてお湯を沸かす。調理をする。)=災害に備える。
- ◇ 一緒に趣味を作る。(音楽、芸術、体育、理科の実験・観察、読書、野菜づくりなど)
- ◇ 親子で楽器演奏に挑戦する。
- ◇ 親子で遊びの技に挑戦する。(けん玉、お手玉、おはじき、ジャグリング、フラフープなど)
- ◇ 親子で体を鍛える。(ウォーキング、ジョギング、ダンス、ストレッチ、キャッチボール、テーブルテニス、リフティング、ドリブル・パス、バドミントンなど)
- ◇ 親子で絵を描く。
- ◇ 親子で映画やアニメを見る。親子で同じ本を読む。
- ◇ 親子で何かを作る。(折り紙、工作、粘土、小物、陶芸、プラモデル、ジグソーパズルなど)
- ◇ 親子でゲームをする。(トランプ、ボードゲーム、将棋、オセロ、すごろく、パズルなど)
- ◇ 検定や資格に挑戦する。(漢字検定、英語検定、〇〇免許・資格)



《幼児の特徴》

「幼児たちは手伝いたくてもしょうがないのです」David Lancy (文化人類学者) は、幼児は、生まれつきのアシスタントだと言います。

家族と一緒に何かをすることで、子どもたちは幸せを感じ、**母親や兄姉がしていることを見て、自分もしたいと思うのが幼児期の子どもの特徴なのです。**

しかし、子どもたちができることは限られています。何をしてもうまくできなくて、すぐに気持ちがそれたり、怒り出したりするのも特徴です。

幼児期の子に手伝ってもらおうと、時間がかかりますし、うまく出来ないため後でやり直さなくてはならなくなり、二度手間三度手間となることがありますから、多くの親は、幼児の「手伝いたい」という申し出を断り、自分で行うことを選んでしまいます。

はじめは上手くできない子どもたちも回数を重ねればできるようになります。子どもの成長のためだと考え、グッと我慢して子どもに手伝ってもらおうことが、実は大切なのです。

花の水やり、ペットの餌やり、洗濯する衣服を洗濯かごに入れるなど、**幼児期の子どもにもできる手伝いはいっぱいあります。**手伝いをさせることで、自信が付き、責任感が生まれ、コミュニケーションがとれるようになります。また、自分で考える力が付き、自己肯定感が高まるなど、その効果はとても大きいといえます。もちろん、「ありがとう」「とても助かったよ」「上手にできたね」などの「感謝の言葉」や「褒める言葉がけ」をお忘れなく！